



2021年 定時社員総会 資料（議案書）

第1号議案	2020年度 事業報告	1
第2号議案	2020年度 収支決算報告	11
（報告事項）	2021年度 活動方針	16
（報告事項）	2021年度 委員会等一覧	17
（報告事項）	2021年度 日本デザイン学会組織	19
（報告事項）	2021年度 事業計画	20
（報告事項）	2021年度 予算	26

第1号議案

2020年度 事業報告

論文審査委員会

委員長 久保 光徳

2020年度の投稿論文数は、英文誌「Journal of Science of Design」では42件、和文誌『デザイン学研究』では50件となった。掲載件数には、論文27件（英：12件、和：15件）、論説1件（英：1件、和：0件）、報告22件（英：7件、和：15件）となっている。ご投稿いただいた会員の皆様に御礼を申し上げる。

また今年度も多くの先生方に論文審査にご協力いただき、大変貴重なご意見やご指摘をいただきましたこと、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

※以下のご協力いただいた先生方記（敬称略、順不同）

AHMAD Aziz Hafiz, ALVAREZ Jaime, Bao Suomiya, CHANG Ikjoon, Chen Li-Hao, Chiang Shyh-Bao, Chuang Yu-Hsing, Hung Chi-Sen, HWANG Shyh-Huei, Li Shu Lu, LIN Chang-Rong, LOH Wei Leong, Tanaka Minami, Tsai Tung Jen, Vesna Popovic, Wang Chao-Ming, ZHANG JUE, 赤澤 智津子, 蘆澤 雄亮, 阿部 眞理, 池田 岳史, 石井 雅博, 石川 義宗, 石橋 圭太, 伊豆 裕一, 板垣 順平, 伊藤 孝紀, 伊藤 俊樹, 猪股 健太郎, 伊原 久裕, 今泉 博子, 植田 憲, 上田 一貴, 大鋸 智, 岡田 明, 尾方 義人, 小川 直茂, 小野 健太, 柿山 浩一郎, 郭 龍旻, 片山 めぐみ, 加藤 健郎, 川合 康央, 川上 浩司, 姜 南圭, 北 雄介, 木村 敦, 清須美 匡洋, 桐谷 佳恵, 櫛 勝彦, 工藤 芳彰, 久保 雅義, 久保 光徳, 小山 慎一, 近藤 祐一郎, 佐賀 一郎, 境野 広志, 坂本 和子, 櫻木 新, 佐藤 公信, 佐藤 浩一郎, 佐藤 弘喜, 沈 得正, 下村 義弘, 杉本 美貴, 鈴木 直人, 須永 剛司, 莊 育鯉, 曾我部 春香, 曾和 英子, 田中 佐代子, 田中 隆充, 田中 法博, 田中 吉史, 田端 啓希, 寺内 文雄, 中西 美和, 中本 和宏, 永

盛 祐介, 生田目 美紀, 西村 美香, 野口 尚孝, 萩原 将文, 原田 利宣, 平尾 章成, 平田 一郎, 前川 正実, 榎 究, 村松 慶一, 三橋 俊雄, 森野 晶人, 山内 貴博, 山田 隆人, 山本 早里, 吉岡 聖美, 劉 夢非, 羅 彩雲, 渡邊 慎二

作品審査委員会

委員長 杉下 哲

「デザイン学研究 作品集 26号（2020）」は、作品24件（内8件作品ムービー添付）の掲載を、J-Stageで電子刊行した。全投稿数は38件で、採択率は63%であった。今回採録にいたらなかった作品も含め、続くコロナ禍の社会状況のなか、多くの投稿に感謝する。以下のURLにアクセスして閲覧できる。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/adrjssd/list/-char/ja>

募集・審査・編集・刊行の経緯は、7/1 学会メール通知などでの作品募集の告知に始まり、9/10 投稿受付終了（社会状況から8/31を延長）、9/15～10/9 第1次審査、11/18～12/9 第2次審査を経て、12/20 著者への採録結果通知を行った。1月下旬に編集内容協議して正文社へ刊行作業を依頼し、2月に正文社からの校正依頼や学会事務局からの掲載料請求が著者へされ、校了を経て、3月中旬に正文社から刊行作業終了の報告を受け、3/19にJ-Stage上で刊行した。複数回に審査いただいた専門審査委員の方々、募集から審査、編集までのプロセスを担った本委員会の委員と幹事のみなさまへ感謝する。

学会誌編集・出版委員会

委員長 寺内 文雄

2020年度の特集号は、以下の2冊が刊行された。

5月に、28巻1号（103号）「なぜ子どものためのデザインに取り組むのか」（担当：工藤芳彰）が発行された。また11月には、28巻2号（104号）「人口減少時代の環境デザインを考えるー令和のデザインサーヴェイ」（担当：森山貴之、山本早里）が発行された。いず

れの号とも特色ある内容であり、企画および編集担当者の皆様に、御礼申し上げます。委員：寺内文雄、山本早里、井関大介、曾我部春香。

研究推進委員会

委員長 小野 健太

研究推進委員会の主な活動は、1 研究部会の活性化、2 春季研究発表大会のテーマセッションの運営、3 秋季企画大会における企画運営などである。2020年度は以下の活動を行った。1 東京工芸大学で行われた2020年度秋季企画大会において、学生プロポジション「オンラインワークショップ「未来のデザイン学生を考える」ーアフター・ウィズ コロナのデザイン入試」の企画・運営を行った。2 長岡造形大学で開催される春季研究発表大会においてテーマセッションの募集を行った。3 長岡造形大学で開催される春季研究発表大会にて学生プロポジションの企画を行った。

2020年度担当理事・幹事：蘆澤雄亮、柿山浩一郎・佐々牧雄、佐久間彩記、秋山福生

企画委員会 総合企画

委員長 生田目 美紀

2020年度の企画委員会（総合企画）が主担当となる春季および秋季の大会について報告する。第67回春季研究発表大会（2020年6月26日（金）、28日（日）、岡山県立大学）は、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、中止となった（提出概要をもとに発表成立）。秋季企画大会「みんなでデザイン チーム・クリエイション」（2020年10月24日（土）、東京工芸大学、含む学生プロポジション）はオンライン開催となった。学会として初めての状況となったが、この経験を今後の活動に役立てていく所存である。関係者の皆さまのご尽力に対し、あらためて御礼申し上げます。

企画委員会 支部企画

委員長 平松 早苗

2019年度の「教育成果集」は、企画委員会支部企画として対象を全国に広げ募集を行った。24学校42点の作品を掲載し発行したが、コロナの影響で2020年度春季大会が中止、秋季大会もリモート開催となったため、全面的な配布機会が無くなった。そのような状況で、事務局より全学生会員への郵送の形で配布を実施した。



2019年度「教育成果集」より

2020年度「教育成果集」も企画委員会支部企画として実施し、第2支部にて編集作業中である。2021年度も春季大会がリモート開催となったため、配布時期は秋季大会となった。

教育・資格委員会

委員長 松岡由幸

2020年度は、学会活動方針である「研究・教育基盤の向上」を目的とした「教育」の活動に向けて、具体的な施策の計画・実行のための準備を進めた。

本年度は、委員会を実施し、2019年秋に出版された『デザイン科学事典』に基づいた講習会やセミナーの検討を行った。具体的には、若手のデザイナーや設計者向けの講習会実施の案がだされ、2021年度の開催に向けて準備を進めていくこととなった。引き続き、デザイン学領域における教育・研究の質的向上を高めるプログラムの実施に向けて活動を進めていく。

概要集編集委員会

委員長 柿山 浩一郎

春季研究発表大会概要集編集委員会

の活動は、【1】春季大会の梗概原稿・J-Stage登録情報の収集、J-Stageへの業績登録、および、【2】大会幹事校の大会運営支援である。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響を受け、岡山県立大学で6月末実施予定としていた春季大会が中止された。3月より発表申込、梗概原稿投稿を開始していたため投稿者の不利益にならない大会のあり方を年度当初に検討した。理事会の承認を経て特例措置の位置付けで、例年通りの梗概原稿の事務局チェックと掲載料の徴収をもって業績と認める対応を行った。

2020年度担当理事・幹事：永盛祐介、小宮加寿子

広報委員会

委員長 大島 直樹

広報委員会の主な活動内容である学会Webサイトの更新状態を報告する。2020年度(2020年4月から2021年3月まで)は学会Webサイトにて71件のニュースやイベント記事が投稿された。内訳は、本部事務局34件(48%)、研究部会11件(15%)、支部8件(11%)、概要集編集委員会6件(8%)、作品審査・作品集編集委員会4件(6%)、研究推進委員会3件(4%)、会報3件(4%)、春季・秋季大会実行委員会2件(3%)、会員の著書1件(1%)であった。

2019年度における投稿総数は85件だったため、2020年度は2019年度と比べて14件ほど投稿数が減少した。また2019年度における本部事務局の投稿数は33件と2020年度と同等だったため、その他の投稿が減少したことがわかる。また2017年度より開始した「会員の著書」は、2020年度は新たな登録が1件のみの追加だった。2019年度における会員の著書の追加掲載は8件だったことから、大幅に減少した。

これら投稿数減少の要因として、新型コロナウイルスの影響によって、支部や研究部会が活動できなかったことが影響していると考えられる。今後、社会的な情勢の回復とともに、会員による学会活動も回復することが望まれる。

財務委員会

委員長 生田目 美紀

2020年度はコロナ感染症拡大防止の観点から、大会・会議などがオンラインになった結果、収入は昨年度比でおよそ400万円減少した。内訳をまとめると、一般会計の収入はおよそ4100万円であり、繰越金を除いた収入に対する会員の会費収入は約84%を占めている。また、支出においては、繰越金を除いた実質支出割合は、本部事務局経費が約37%、学会誌編集出版関連経費が約43%を占めている。本部事務局等と連携し、収支計画に係る会員数のタイムリーな把握と、会員管理のための経費削減を目指し「会員管理システム」について導入を開始した。

市販図書企画・編集委員会

委員長 國本 桂史

本委員会は、統合知としての「デザイン」を支える学会の図書企画・編集への取組みを進める。主な活動として、デザイン学に寄与するデザイン研究に関する市販図書の出版のために、新しい分野とのデザインの企画を検討するとともに、それらをセミナーやワークショップに反映して企画に検討してきたがコロナ禍の影響で中止になった。この経緯を踏まえ「デザイン」と言うことを新しい視点で見直して図書企画に取り組んでいく。学会の皆様や異分野の研究者の方々に、ますますのご協力をお願いしたい。幹事：加藤大香士

2020年度

秋季企画大会実行委員会

担当理事 杉下 哲

2020年度日本デザイン学会秋季企画大会は、続く新型コロナウイルス感染症の社会状況のなか、東京工芸大学を幹事校として、10月24日(土)にオンラインで開催した。参加者は123名だった。

本大会では、「みんなでデザイン：チーム・クリエイション」をテーマに、

諸問題を乗り越えて正解をつくる新たなクリエイターの在り方などを見出すなどのため、私たちデザイン関係者の原点である創造：クリエイションに立ち、今求められるクリエイター達による共創を「チーム・クリエイション」と位置づけ、それらによる「みんなでデザイン」する知見や手法などの共通理解を深めることを目指した。コロナ禍である今だからこそ、共に考えたいとした。

また、オンライン開催は、本学会初めての実施だった。春季発表大会中止などの学会内外のイベント開催状況や幹事校内の意思決定など、諸問題に対応しながら企画検討を進めた。今後の参考になる大会運営を心掛けた。

以下に、大会のプログラム概要とオンライン開催などについて記す。

■10/24（土）プログラム概要

1) 開会式・表彰式

小林昭世会長からの開会挨拶の後、佐藤弘喜副会長から以下の通り、各賞表彰を行った。授賞式は以降に予定される。

- ・功労賞：青木弘行、三橋俊雄、石川善美、勝浦哲夫（敬称略）
- ・年間論文賞：阿久井康平、久保田善明、小納亜希「観光・特産品に着目した都市魅力評価指標の開発と国内主要都市の比較分析」（vol.66,no.1,pp29-38,2019）
- ・年間作品賞：山本早里、野濱ありさ、前田萌「地域資源を活用した公共交通デザイン：ひたち BRT を事例として（A 類）」（vol.25,no.1,pp40-45,2019）



開会挨拶の風景（Zoom 画面：小林昭世会長）

2) 基調講演

山口裕幸氏（九州大学大学院人間環境学研究院・教授）からテーマに向けて社会心理学や組織行動学などの観点からの話題を提供していただき、共通理解を持った。



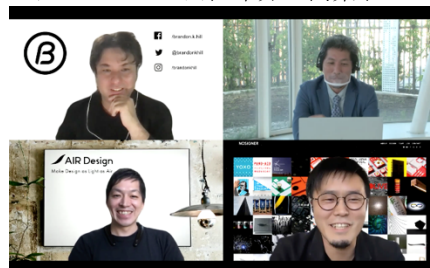
基調講演の風景（Zoom 画面：山口裕幸氏）

3) パネルディスカッション

3 名のパネリストからテーマに関わる AI とデザインをキーワードにした事例などを紹介いただき、実践的な知見の共通理解を深めた。

パネリスト：中平健太氏（株式会社ガラパゴス代表）、太刀川英輔氏（NOSIGNER 代表）、Brandon K. Hill 氏（CEO & Founder, btrax, Inc.）

モデレーター：内山雄介・高梨令



パネルディスカッションの風景

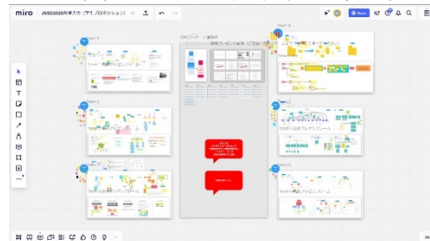
（Zoom 画面：左上：Brandon 氏、左下：中平氏、右下：太刀川氏、右上：内山）

4) 学生プロポジション（発表）

オンラインワークショップ「未来のデザイン学生を考える」が実施された。全国 14 校、31 名の学生が参加し、活発な意見交換が行われた。従来のデザイナーの枠を超えた、コミュニケーションの仲介役としてのデザイナー、色々な人を巻き込む役としてのデザイナー、世界の解像度を高めるデザイナーなど、今後のデザイン領域の拡大の方向性を示唆するユニークかつ説得力のある提案がなされた。参加者からの投票、研究推進委員会、企画委員会による審議の結果、3 チームに優秀賞、研究推進委員会特別賞が授与された。

実施では、「学校を超えた学生間の学術的交流」を目的に、これまでは、全国のデザイン学生が日頃の研究・教育の成果を持ち寄りポスター形式による発表会を行った。本年度は、新型コロナの感染拡大防止と共にオンライン開催をポジティブに捉えて行われた。担当：研究推進委員会：小野健太、蘆澤雄亮、柿山浩一郎、佐々牧雄、佐久間彩記、秋山福生

企画委員会：生田目美紀、工藤芳彰



Miro 上での 6 チームのディスカッション



幹事校での運営メンバーの活動風景

5) 閉会式など（挨拶、春季大会の案内など）

小林昭世会長からの閉会挨拶などの後、2021 年度春季発表大会について境野担当理事から案内があった。

■オンライン開催

オンライン開催に際しては、テーマやスケジュールなどとともに、参加費を無料とするなど予算の決定を理事会で受けて進めた。大会費用や業務負担を抑制するため、大会 Web サイトは WordPress を使って実行委員会で自主制作し、参加登録は Peatix Japan 株式会社のサービスを利用した。学生プロポジションは専用 Web サイトが設けられた。使用アプリは、学会が契約した Zoom（オプション：500 名まで、ウェビナー機能）とした。



簡易スタジオの風景

当日は、幹事校の入学制限や感染防止対策などの条件に従い、(仮称)大会センターとして学内に設けた簡易スタジオや学生プロポジション専用室、関係者サロンで実施した。スケジュールでは、各プログラムの合間に 20 分の移行時間を設けるなど、トラブル回避を意図した余裕のある進行とした。

文末になるが、続くコロナ禍のなかで貴重なお時間を取っていただき、ご参加いただいた皆様に感謝の意を表すると共に、会員の皆様の益々のご発展を祈念し、開催報告とする。

■組織体制：大会実行委員長：内山雄介、副実行委員長：高梨令、事務局長：高城光、担当理事：杉下哲



大会実行委員会メンバー（Zoom 画面）

■大会 Web サイト：<http://www.dsn.t-kougei.ac.jp/jssd20f/>
 参加登録 Web サイト
<https://jssd20f.peatix.com/>
 学生プロポジション Web サイト：
<https://jssd2020stdntpropo.studio.site/>

学会各賞選考委員会担当

担当理事 山中 敏正

学会各賞選考結果

<年間論文賞>

・阿久井 康平，久保田 善明，小納 亜希

観光・特産品に着目した都市魅力評価指標の開発と国内主要都市の比較分析 (vol. 66, no. 1, pp29-38, 2019)

<年間作品賞>

・山本 早里，野濱 ありさ，前田 萌
 地域資源を活用した公共交通デザイン：ひたち BRT を事例として (A 類) (vol. 25, no. 1, pp40-45, 2019)

<功労賞>

以下の2名の先生方が受賞された。

・青木弘行、三橋俊雄、石川善美、勝浦哲夫

2020 年度学会各賞選考委員会

委員長：庄子晃子

委員：青木弘行、杉山和雄、原田昭、松岡由幸、宮崎清、宮内哲、森典彦、山中敏正

（なお、功労賞の審査は受賞資格のある委員を除く以下の委員で行った。庄子晃子、杉山和雄、原田昭、松岡由幸、宮内哲、宮崎清、森典彦、山中敏正）

Design シンポジウム担当

担当理事 松岡由幸

本シンポジウムは、日本デザイン学会をはじめ、デザインや設計を上位概念とする日本機械学会、精密工学会、日本設計工学会、日本建築学会、人工知能学会により、デザイン・設計領域における知を総合する目的で会議を隔年開催している。

2020 年度は、精密工学会が幹事学会として、2021 年 9 月 16 日-17 日において、東京大学駒場キャンパスにおいて実施予定の準備を進めてきた。

デザイン関連連学会シンポジウム担当

担当理事 松岡 由幸

2016 年の当学会秋季大会において、芸術工学会、意匠学会、基礎デザイン学会、道具学会の各会長が集い、デザイン哲学に関する議論を実施した。本シンポジウムは、それを機に、毎年、この日本におけるデザインに関する 5 学会が集い、哲学などさまざまな横断的な議論を行う場である。

2020 年度は、基礎デザイン学会が幹事学会となり、10 月 3 日（土）に名古屋芸術大学にて実施予定であったが、コロナ禍の状況を鑑み、やむなく中止となった。

IASDR 担当

担当理事 山中 敏正

IASDR2021 Hong-Kong Polytechnic University 大会に向けての準備を進める年であった。COVID19 の感染症拡大で世界中が大混乱している中、7 月 8 日、オンラインで理事会が開催され、副会長に Peter Lloyd (DRS) を、事務局長に Tek-Jin Nam (KSDS) を選出した。2021 年開催予定の Hong-Kong Polytechnic University の準備状況を確認した。10 月になって、傘下学会である Design Society 会長から正式に IASDR から離脱する決定をした旨の連絡があり、理事会に諮る判断をした。12 月、IASDR2021 開催について、開催校、会長、副会長、事務局長に前会長を加えて確認し、Call for Paper

の発出を急ぐ事とした。同時に、近年の大会発表論文の質の低下について懸念を共有し、傘下学会の関与を強めるべくそれぞれの母体の学会に積極的に、査読、座長などで協力することを依頼するように決定した。

3 月 11 日に年度 2 回目のオンライン理事会を開催した。2021 大会の進捗について共有したが、DRS の国際化の加速に伴う IASDR と DRS の協力関係の強化改善について議論し、IASDR 発表論文の記録など複数の面で可能性があることを確認した。

IASDR 理事（2020-2021）

CID: Tung-Jung Sung, Fong-Gong Wu

DRS: Peter Lloyd, Martyn Evans

JSSD: Toshimasa Yamanaka, Kenta Ono

KSDS: Byung-Keun Oh, Tek-Jin Nam

CO-OPT: Lin-Lin Chen, David Durling

日本学術会議

第一部/人文・社会科学

前担当理事 小林 昭世

本デザイン学会を含む16学会よりなる芸術学関連学会連合は、シンポジウム開催を主な活動としている。2020年度は、コロナの影響で、6月に準備していたシンポジウムを2021年度に延期し、その準備を行なった。

横断型基幹科学技術研究団体連合

担当理事 蘆澤 雄亮

本学会では、横幹連合が2018年度より「コトづくり至宝発掘事業」の一環として実施している「コトづくりコレクション」の運営に関して積極的に協力を行っている。2020年度は2件のコトづくりが選出され、本学会としてはホームページに掲載する概要・訴求点・講評の文章作成に関して積極的に関与した。今年度で3回目となるコトづくりコレクションであるが、初回から比較すると、応募者の文章も当初想定さ

れた記述へと近づきつつあり、コトつくりに関する理解は徐々に深まってきたことが実感された。

日本工学会

担当理事 小野 健太

日本工学会は、約 100 学協会により構成される工学系学術団体である。主に事務研究委員会を通じて、会員学協会との話題提供や学協会運営などに関する最近の情報交換を行っている。2020 年 10 月 7 日（水）15 時からオンラインで開催された「令和 2 年度会長懇談会」に小林会長にご参加頂き、他学協会との連携および情報収集を行って頂いた。また 2021 年 3 月 4 日（木）に開催された「第 2 回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム」に日本工学会所属学会として協賛させて頂いた。

機械工業デザイン賞審査委員会担当

担当理事 小林 昭世

日刊工業新聞主催の機械工業デザイン賞(IDEA)に日本デザイン学会賞は 2018 年度より創設された。2020 年度は、新型コロナ感染拡大の影響を受け、本賞最大の特長である現物審査に匹敵する方法を見いだすことができず、出張審査を断念した。今回は贈賞区分である「最優秀賞（経済産業大臣賞）・日本力賞・日本商工会議所会頭賞・日本デザイン学会賞を含む団体賞・特別賞」の選定は行わず、書類審査通過 21 製品を「入賞」として顕彰することとした。

第 1 支部

支部長 横溝 賢

日本デザイン学会第 1 支部は、デザイン学を地域に還元することを目的に東北・北海道地区のデザイン系大学が集まって組織された支部会である。本支部では、これまで地域に開かれた学会活動をコンセプトに、仙台、札幌、函館、秋田、山形、八戸に出向き、地元市民や学生、社会人、教員らがフラ

ットにデザイン学の知見を交流する場を作ってきた。現場を大切にしてきた第 1 支部大会であるが、2020 年度は COVID-19 感染拡大防止に配慮し、2020 年 10 月 4 日（日）10:00~16:00 にオンライン(ZOOM)で開催した。開催テーマはコロナ禍のリモート化により社会活動の効率化が加速する中、日常における無駄な行為や時間が失われていくことを鑑み、【「むだ」のデザイン】とした。本年度の支部会では、この「むだ」をテーマに「一見すると失敗が見えている挑戦」や「終わりの見えない研究」、「他愛のない小さな創作活動」など、「なんてむだなことをしているんだ!」という〈デザインむだ話〉を支部会 WEB (<https://jssd-branch1-2020.studio.site>) と SNS を使って公募した。その結果、口頭発表 9 件、ライトニングトーク 21 件、計 30 件の研究発表が集まり、参加者は 65 名の参加登録があった。発表者には、デザイン学生やデザイン研究者だけでなく社会人デザイナーやインテリアデザイナー、図書館ディレクターや林業家なども参加し多様な現場における実践的な研究発表が集まった。また、今回は学会のオンライン化に伴い、2 つの工夫を試みた。1 つ目は、ただ聞いているだけでは身体が鈍ると考え、胃袋を使って考える場として、食べながら



発表の振り返り議論をする時間、もぐもぐデザイン交流タイムをランチ(12:00)とおやつ(17:00)の時間に設けた。2 つ目の工夫は、プログラム進行に関係なくいつでもコメントでき、さらに発表者へのコメントだけでなく他者のコメントに対して意見を述べ議論をその場で深められるコミュニケーションツールを用意した。

このツールは、コメントに対して「いいね」や「もっと聞きたい」など絵文字スタンプを押すことができる。それにより、参加者が議論を深めたい



関心の矛先を視覚的にわかるようにした。これらの工夫により、発表者とコメント者、そして参加者らがフラットに議論を深めていく環境が生まれ、学会全体の対話が豊かに形作られた。1 日をフルに使ったオンライン議論の場であったが、途中食べながらの歓談も挟んだことで参加者同士緩やかに、しかしじっくりと話を聞き、自らの経験を重ねながら議論する関係が生まれ、リアルに劣らない学会活動を形づくることできた。2021 年度もコロナ禍の継続が予測されるが、次年度は本年度開催予定であった岩手大学を拠点にして対面またはリモートのどちらかで参加できるハイブリッド形式での第 1 支部大会開催を模索したい。

大会実行委員長：横溝賢（第 1 支部長、札幌市立大学）、副委員長：柚木泰彦（同副支部長、東北芸術工科大学）、コミュニケーション技術開発：三河侑矢（札幌市立大学）

第 2 支部

支部長 平松 早苗

企画委員会支部企画として、全支部会員を対象にして作品の応募を行った 2019 年度「教育成果集」の、編集を行った。掲載作品は、24 学校 42 点の作品である。

企画委員会支部企画の 2020 年度「教育成果集」を、第 2 支部で編集作業中である。7 月上旬に発行予定である。

第 3 支部

支部長 滝本 成人

第 3 支部では今年度も会員交流と研究活動・デザイン活動の活性化を目的として、下記の事業を実施した。

1. 第 3 支部研究発表会

目的：研究発表を通し会員と学生の交流を深める。

発表内容：デザインに関係したあらゆるテーマを発表対象とした。発表者自身が行ってきたデザイン学研究、今後のデザイン学研究の方向性・発展性などについて、自由な発想で発表していただいた。

開催日時：令和3年2月27日(土) 9時30分～16時30分

内容：口頭発表、ポスター発表、表彰

会場：リモート開催/Zoom

参加者：47名(会員18名、学生：33名)

発表：29件(口頭17件、ポスター12件)

概要：16回目となる本研究発表会は、リモート開催の関係で口頭発表とポスター発表は学生発表のみで行った。発表に先立ち2月20(土)にリハーサルを行い、発表者全員の参加を義務付けた。発表当日は、Zoom内のブレイクアウトルームをメイン会場とし、口頭発表は2会場で行い、ポスター発表は4ルームを3回転して発表を行った。研究発表会の各概要は、ISSNを取得した第3支部研究発表会概要集に収録され(ISSN2188-479X)、国立国会図書館に収録する。平成25年度より「優秀発表賞」を設け、今年度は以下の4名を表彰した(敬称略)。

■八木 貴生(名古屋市立大学)

UXデザイン手法を用いた「ウェアラブルデバイス」がもたらす体験価値の分析及び研究 ウェアラブル保湿機の研究開発

■高橋 品太郎(名古屋市立大学)

プロダクトを介した特定の行為が目的タスク以外に人の内面に与える影響についての調査分析 心も綺麗にする掃除道具の提案

■門松 沙姫(東海大学)

すごろくを用いたリフレクションゲームの制作

■境田 絵美(名古屋市立大学)

タイムアクシスデザインを踏まえた次世代キッチンのデザイン

2. 第3支部報告集

支部会員の日頃の研究活動・デザイン活動の発表の場として、平成30年度より「第3支部報告集」を出版してい

る。今年度はテーマ付き報告集として「遠隔授業における特色あるデザイン教育」を付け加えた。投稿者は目白大学の竹山賢氏、名古屋学芸大学の中西正明氏、金城学院大学の弓立順子氏の3名であった。報告集は第3支部研究発表会概要集と合本で出版した。

3. 日本デザイン学会奨励賞第3支部
学生表彰制度について、平成25年度より「奨励賞」を設け、各所属機関(大学、大学院、短期大学)において優秀な研究・制作活動を行った学生・大学院生を対象に表彰を行う。

目的：表彰制度による学生の研究・制作活動に対する評価

対象：日本デザイン学会第3支部会員(教員)在籍の大学院・大学・短期大学において、特に優秀な研究・制作を行った学生と大学院生を対象とする。

人数：各所属機関の学部卒：2名、大学院前期課程(修士)卒：2名、後期課程(博士)卒：2名、(プロジェクトの申請は1件とした)

選考方法：各所属機関に所属するデザイン学会会員による選考

表彰：第3支部から賞状データをメールで送付し、各機関にて印刷し卒業式で表彰する。

表彰学生：名古屋工業大学の小篠佑佳・村上香彩、名古屋市立大学の高橋快勢・田中一鉄、長岡造形大学大学院の軍司円、北陸先端科学技術大学院大学の西野涼子・Zhao Jing・LIN Yung Yu・Kieu Que Anh、愛知産業大学の岡安諒也、愛知淑徳大学の鈴木絵美里他13名、金城学院大学の加藤友梨・西森碧泉、椋山女学園大学の小林千華他2名、名古屋学芸大学の舟橋菜生・田中健太郎、福井工業大学の元田咲帆・中田優里菜、福井工業大学大学院のOng-on Witthayathada・山本康介、(敬称略)

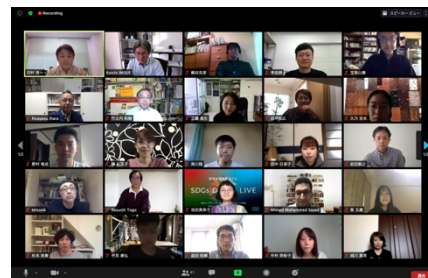
第4支部

支部長 益岡 了

第5支部

支部長 田村 良一

2020(令和2)年10月17日(土)、九州産業大学を幹事校として、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、2020年度第5支部発表会をオンラインで開催した。



オンライン発表会の様子

本発表会では、研究発表26件、ライティングトーク10件の合計36件の発表があった。また、第5支部の会員、学生のみならず、遠くは北海道、東京などの他支部の会員、学生の参加もあり、計64名に上る参加があった。

昨年度に引き続き、概要原稿についてはMediaWikiを活用した。加えて、オンライン開催ということから、発表者や聴講者への柔軟な対応という趣旨のもと、MediaWiki上に提案物やプレゼンテーションの動画をアップロードするビデオオンデマンド方式を取り入れた。また、各発表に対する質疑応答は、MediaWiki上の議論のページへの書き込みで対応することにした。

今年度の発表会は、コロナ禍の影響を受けて、支部として想定していた以上のスピード感で、MediaWikiを活用した新しい学会発表のあり方を実験的に実施することとなった。

2020年度第5支部発表会

<https://design.kyusan-u.ac.jp/jssd5th2020/>

本部事務局

本部事務局長 佐藤 弘喜

2020年度末の会員数は、正会員1,530名、学生会員数358名、名誉会員73名、賛助会員数29件、年間購読会員41件となっている。正会員と学生会員を合わせた会員数は1,888名で、昨年の同時期(1,677名)と比較して211名の増加となった。

昨年度は2019年度から引き続いて

新型コロナウイルス問題の影響が大きく、事務局の対応や理事会活動など、本部事務局の業務も対応に苦慮することとなった。運営委員会や理事会は基本的にオンライン会議として実施することとなり、学会として Zoom アカウントの契約を行った。春季大会の中止により総会をどのように開催するかが課題となり、初のオンライン総会となった。新型コロナウイルス問題はまだ収束の見通しが立っておらず、今後もこの課題に配慮しつつ学会活動が停滞しないように、事務局としての対応を検討する必要がある。

また、従来から課題となっていた本部事務局業務の効率化のため、会員管理システムを導入した。本格的な運用は本年度からとなるが、導入に際してデータ移行や初期設定の修正、一部機能の見直しなどが必要であることから、現在も継続的に対応を進めている。会員の皆様には本システム利用に対するご理解とご協力をお願いしたい。

教育部会

主査 金子 武志

2020年度の教育部会では前年度に企画したデザイン教育研究会を含め全ての活動について、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から状況判断しながら実施日程等を検討するつもりだったが、感染状況が好転せず結果的に実施に至らなかった。

<活動概要>デザイン教育研究会の企画

日時：未定

会場：日本デザイン福祉専門学校
学生ホール（東京都渋谷区千駄ヶ谷
5-7-3, 1階）

発表者：中川 英之（gallery 坂 オーナー）

テーマ：『蒐集についての一考察 ～モノとの縁、ヒトとの縁～』

発表概要：なぜ、人は蒐集するのか。蒐集癖などとも揶揄され、蒐集に興味がない人には、まるで理解できない不可思議な行為。蒐集する対象物は、それこそ多種無限に及ぶ。モノがもつ魅力、その魅力の捉え方も人それぞれだが、モノを蒐めるということは、謂わ

ば、それ自体が一つのデザインであり、一つの創作だとも思う。様々な素材を扱う表現者、手仕事の人々と出会う生業を私はしているが、モノを蒐めることは、そのモノを生み出したヒトに興味をもつことでもある。なぜその素材を扱うことになったのか、その作風に至る道程はどのようなものなのか、いま挑みたい表現は何か、敢えて異素材への探求心はないか、など興味は尽きない。そのモノが古物の場合には、そのモノの歴史や民俗など、その背景へ興味が至る。どんな時代に、何処で、どのような者がこさえたのか、どのように伝世してきたのか、否、できれば伝世などせず、蔵から出てきて真っ先に目垢のつかないそれを手にしたい、そんな風に、そのモノを巡る夢想妄想は果てなく繰り広げられる。そんなモノたちが帯同してくれる世界は、人生に深みを与え、より豊かにしてくれる。そんなモノ蒐集について思い巡らす様々や、そこから派生する取り留めもない話に、今回は少々お付き合い頂きたい。（研究会案内より抜粋）

発表者紹介：中川 英之（gallery 坂 オーナー）

日本大学文学研究科史学専攻修士課程修了 日本中世史を鈴木國弘氏に、日本民俗学を平野榮次氏に師事、村落や島嶼への民俗調査や、武蔵村山市史編纂専門調査員としての現地踏査研究から、郷土資料や古道、民間信仰遺物の価値・多様性への探究を深める。明光義塾狭山ヶ丘教室長を6年間務めた後、2005年東京神楽坂にgallery坂開廊。工芸、平面、造形など多岐に亘る作家展を開催する展示スペースと、30人余の魅力溢れる作家作品を展覧する常設スペースを併設し、素材・ジャンルを問わず様々な輝きを放つ作家たちと、その挑戦する表現や手仕事の形姿を紹介し続けている。07～19年神楽坂まち飛びフェスタ参画、09～12年カグラザカヨコロジ参画、11年木旋美術倶楽部第1回展示会講評、18年十人十色神楽坂ガラス散歩参画、18年日本デザイン福祉専門学校クラフトデザイン学科特別セミナー講師

環境デザイン部会

主査 山内 貴博

2020年度は、「サステナブル環境デザイン」をメインテーマとした。前年度から始めた企画である「人口減少時代の環境デザインを考える～令和のデザインサーヴェイ～」の執筆活動を継続して行い、春季大会では筆者らによるオンライン座談会が行われた。その内容は、特集号第28巻2号にまとめ、11月に発行された。

機関誌「ED Place」は、5月に88号「卒業制作特集」を、11月に89号「新しい生活様式と環境デザインについて～コロナ禍のアンケート～」を、3月に90号「続・コロナ禍にて～パンデミックから約12ヶ月～」を各主題にして、部会員からの投稿をまとめ、この3冊をPDF配信により発行した。

家具・木工部会

主査 新井 竜治

●春季大会テーマセッション

新型コロナウイルス感染症拡大のために2020年度春季大会が中止となったが、テーマセッション - 家具・木工部会：「伝統的資源と現在学」には口頭発表原稿が6本集まった。同テーマセッションでは、名誉会員の石村眞一氏によるキーノート講演「木製家具デザインにおける今後の課題」を実施する予定であったが、2021年度以降に順延となった。

●総会

例年、春季大会に合わせて開催してきた家具・木工部会の総会は休止となった。

●その他

部会報「家具・木工通信」の発行を見合わせた。また、家具・木工部会だけの研究発表会及び部会総会のオンライン開催も見送った。

デザイン史研究部会

主査 立部 紀夫

昨年度はコロナ禍のため、残念ながら研究会の活動を中止せざるを得なかった。

デザイン科学研究部会

主査 松岡 由幸

2020 年度においては、新型コロナウイルス蔓延の影響で6月に開催予定であった春季大会でのテーマセッション「多空間デザインモデル、デザイン理論・方法論」が中止となり対面での議論ができなかった。そのため、部会内では今後の活動に向けた議論を中心に行った。

具体的には、現在まで開催してきたデザイン塾のオンライン企画やデザイン科学の認知度や普及を目的としたオンライン講習会企画などの今後のオンラインを活用した活動について議論した。これらを推進して、引き続き、デザイン科学の発展に貢献していく。

ファッションデザイン部会

主査 神野 由紀

2020 年度ファッションデザイン部会の研究例会は、前年度に開催が延期となっていた発表内容について、以下のとおりオンライン開催で実施した。

テーマ：「ハンドメイド趣味をめぐる歴史と現在」（発表者：神野由紀、中川麻子）。

発表者：神野由紀、中川麻子

発表方法：ZOOM によるオンライン開催

要旨：趣味としての手芸、ハンドメイドが日本でどのようにジェンダー化され、また新たな展開を見せているのか、これまでの共同研究の内容（『趣味とジェンダー』青弓社、2019）をもとに、さらに各自が今日的課題につなげた成果を報告した。

発表 1：手芸からハンドメイドへ（神野由紀）

女性の伝統的な仕事であった裁縫が既製服にとってかわり、女性たちは手芸を趣味とすることで針と糸と布の作業を続けた。住まいを飾る手芸作品は、ジェンダーを越境しようとする動きを見せながらも女性の共同体意識の中で美化・強化されるに至った。しかし家庭のための手芸は、その後 1990 年

代にハンドメイドという名称になり大きく変化し、住まいではなく身体を飾るためのファッション雑貨の制作、そしてそれを販売して利益を得るという経済活動への接近が生じた。こうした手芸からハンドメイドへと移行する過程について、手作り雑誌の記事内容の変化と、ハンドメイド販売を行う人物へのインタビューを紹介しながら、女性が近代的なジェンダー役割を超え、新たなプロシューマーに至る状況を明らかにした。

発表 2：女子学生と「手芸」（中川麻子）

中川は、現在の女子学生が手芸を始めるきっかけと背景、また「趣味」としていく過程について取り上げた。女子学生の祖母・母世代にとって、手芸・裁縫は必要な家事である共に「良き主婦・母親像」のイメージを補完するもので、母親同士のコミュニティへの帰属手段であった。家庭内での裁縫が不要となり、学校教育においても手芸・裁縫のカリキュラムは減少しているなか、女子学生が趣味として「手芸」を行う背景、要因、経緯を分析するために、手芸の経験のある 10～20 歳の女子学生計 11 名に対して、インタビューと補助アンケートを実施した（2016 年 1 月～2017 年 3 月）。その結果、手芸は幼稚園・小学校から始める場合が多く、家庭環境と女系家族の影響が強かった。また女子学生は「手芸」に対して「女性的、昔、家事」と「自分の欲求を満たす手段、好きだからやる」という 2 つの異なるイメージを持っていた。女子学生世代は、祖母・母世代の手芸のジェンダー的イメージを感じながら、しかし自分たちが行っているのは「ハンドメイド」であり、「手芸」とは別のものである捉えている事がわかった。手芸関連の書籍・雑誌の表題の分析結果からみても、2000 年代には「手芸」は「ハンドメイド」という語に移行していた。若い世代を中心に「手芸」の祖母・母世代のジェンダー的イメージが薄れ、新しい創作活動分野として認識され、広がりを見せていることが明らかとなった。

参加者全員による活発な質疑応答の後、研究例会を終えた。

2021 年度の活動計画については、新型コロナウイルスの感染状況をみながら、引き続きオンライン開催の可能性も含めて検討する。

子どものためのデザイン部会

主査 赤井 愛

2020 年度は第 67 回春季大会（岡山県立大学）において、8 年連続となるテーマセッション「子どものためのデザイン」を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。大会と併せて予定していた部会ミーティング、また、夏に予定していた KDSS2020（感性デザインサマーセミナー2020）との共同開催の部会ワークショップも中止となり、2020 年度は部会メンバー間での直接の交流はかなわなかった。しかしながら 5 月には当部会主宰の特集号「なぜ、子どものためのデザインに取り組むのか」を発行することができた。2021 年度は心機一転、コロナ禍にあっても（だからこそ）出来る活動を模索する。

タイムアクシスデザイン研究部会

主査 寺内 文雄

2020 年度においては、新型コロナウイルス蔓延の影響で6月に開催予定であった春季大会でのテーマセッション「タイムアクシスデザイン」が中止となり対面での議論ができなかった。しかしながら、オンラインを活用した議論の場を数回設けたことにより、取り組んでいるテーマの 1 つである「主体的習慣行動の時間変化」に関するディスカッションを実施することができた。

2021 年度からは主査が交代するが、大量消費や大量廃棄による地球温暖化、エネルギー問題の深刻化、および精神的豊かさの欠乏などの諸問題解決に向けたタイムアクシスデザインの理論、方法論、および方法の構築に本部会は邁進する。

バイオ・メディカルデザイン研究部会

主査 國本 桂史

バイオ・メディカルデザイン研究部会は、医療・ヘルスケア分野のデザインはそれが医療機器デザインや、人工関節などの人体再建の構造デザインであるとを問わず、医学ヘルスケア分野との積極的な協力によって、各方面において科学的な手法と技術を取り入れ、その現象的解明を進展させると同時に、より有効な手段と有意義なデザイン手法の提供に努力が向けられる必要がある。

医学・ヘルスケアにデザインの手法をいかに取り入れるかという問題は、それが医学とデザインとの境界領域にあるために、両者の緊密な連繋が必要なのは勿論であるが、デザイン側においても、医学と工学の協力を得なければ十分な成果を挙げることはできない。また生体工学的概念を具体的に進展させるためにデザインの手法を必要とするとし、2008年6月に設立された。

2020年度においては、4月10日には名古屋市立大学桜山キャンパスにおいて行われたTVカンファレンス「コロナと産業」に参加。4月23日に予定していた愛知県幸田町民会館での金出 武雄(カーネギーメロン大学ワイタカー全学教授)の講演会がコロナ感染拡大防止のため中止になった。

4月28日に米国と公益財団法人 名古屋産業科学研究所中部 TL0 と公立大学法人名古屋市立大学大学院医学研究科で行われたTVカンファレンス「これからの医療とデザインの融合」としての「臨床医療デザイン学分野」でのスピーチを行なった。

5月25日～27日に初のオンライン開催された第59回日本生体医工学会: テーマ「生体工医学のグローバル展開に向けて」に、6月22日には東京経済産業省の委託チームとTVカンファレンス「次世代医療産業構築へむけて」を行なった。7月14日に公益財団法人名古屋産業科学研究所中部 TL0 と医療機器研究開発の連携について会議を行った。7月21日に中京大学にて情報理工学部機械情報工学科教授の野浪享先

生と「新素材の医療への利用」についてカンファレンスを行った。

7月30日に医療用立体モデルコンシウムにオンライン参加。8月22日にオンラインで日本医療住宅ダイバーシティ学会に参加。

11月4日に大学共同利用機関法人科学自然科学研究機構 分子科学研究所・明大寺キャンパスにて見学と、平等拓範先生(特任教授)を中心とする研究チームと小型レーザーの高度医療利用についてカンファレンスを行った。

2021年1月14日米国 Dassault System社と超高レベル3次元CADの医療応用についてTVカンファレンスを行う。1月29日に経済産業省主催の医療機器開発ガイドライン活用セミナーにオンラインで参加。

当研究部会はメディカルデザインという観点から医学領域における患者に優しい医療機器の研究開発のプラットフォーム創造を目指している。今後も、医療従事者、医師、研究者とのシームレスな連携を目指して、異部門との共同研究を視野に入れ医学環境で価値のある医療機器の研究開発を目指す。

情報デザイン部会

主査 横溝 賢

情報デザイン研究部会では2020年度第67回日本デザイン学会春季研究発表大会(以下、春季大会)において、「実践者たちデザインの知のはたらき」というセッションテーマを掲げ、発表者を公募した。このテーマでは、多様な現場におけるデザイン実践の生々しい語りを集めて議論することから、実践を論述するための理論的枠組みを見出すことを目標としていた。春季大会ではこのテーマに16件の投稿があった。しかし大会がCOVID-19感染拡大防止のため中止になったことを受け、投稿者に発表の場を設ける必要があると考え、部会独自にオンライン研究発表会「オルタナティブデザイン」を2020年10月19日(土)に開催した。このテーマは、「人ともとの社会の関わり合いのかたの〈もう一つの可能性〉

を常に見ようとする情報デザインの特徴を〈もう一つのデザイン=オルタナティブ・デザイン〉とし、情報デザイン学の社会的な役割をメッセージとして伝えることを目的に設定した。発表申し込みは、デザイン学会ウェブサイトから公募し、春季大会におけるテーマセッションへの投稿者/情報デザイン分野への投稿者/本部会関係者のいずれかを満たしていることを申込条件とした。その結果、12件の発表申し込みがあった。発表者リストは次の通りである。小早川 真衣子(千葉工業大学)、三河 侑矢(札幌市立大学)、岡村 綾華(東京藝術大学)、日下 真緒(慶應義塾大学大学院)、酒井 章(武蔵野美術大学 大学院)、両角 清隆(東北工業大学)、中島 郁子(wirefactory)、三野宮 定里(公立はこだて未来大学大学院)、原田 泰(公立はこだて未来大学)、廣瀬 花衣(慶應義塾大学 大学院)、草薙 和士(東北工業大学大学デザイン工学専攻)、木村 篤信(NTTサービスエボリューション研究所)、元木環(京都大学)

聴講者募集はPeatixからおこない64名の申し込みがあった。また口頭発表後に本部会幹事メンバー8名によるオーガナイズドセッション「実践者の見えを交差させることから顕れるデザインの知」を開催し、各々の実践の中にあるデザイン知を探る学会議論のありかたを模索した。この一連のセッションプログラムを1日という限られた時間の中で濃縮して議論するために、本セッション専用サイトを準備した。発表者は発表概要とyoutube動画を事前に専用サイトにアップロードし、聴講者と発表概要・動画を事前共有できるようにした。セッション当日は、発表者による5分のライトニングトーク(以下、LT)を聞いた上で質疑応答の議論ができるようにした。動画公開とLTを組み合わせた結果、各発表に対しリアルとチャットの意見がテンポよく複合的に飛び交い、濃縮した発表・議論の場が作られた。コロナ禍だからこそ、生きることとデザインすることをどうやって同一にしていけるのか、その知恵と技について丁寧に議論し合う学術交流がオンライン上に形成できた。



情報デザイン研究部会・オルタナティブデザイン専用サイトはこちら：

<https://sites.google.com/view/info-d-festival2020/>

企画・運営・実行委員（情報デザイン研究部会幹事メンバー）：（五十音順）上平崇仁（専修大学），小早川真衣子（千葉工業大学），瀧知恵美（ミミクリデザイン），中島郁子（wirefactory），二宮咲子（関東学院大学），福田大年（札幌市立大学），元木環（京都大学／副査），横溝賢（札幌市立大学／主査）

タイポグラフィ研究部会

主査 伊原 久裕

2020 年度は、主立った活動を実施しなかった。年度の途中で主査の交代があり，交代後暫定幹事会を開催し次年度の活動計画について検討を行った。

創造性研究部会

主査 永井 由佳里

コロナ禍においてオンラインでの研究交流会，研究発表会，共同研究打合せを実施した。また，関連する国際会議への貢献を積極的に果たし，成果発表を行った。

第2号議案**2020年度 収支決算報告****I 貸借対照表（収益事業）****貸借対照表：収益事業**

(令和3年3月31日現在)

単位：円

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	0	流動負債	0
固定資産	0	固定負債	3,444,465
有形固定資産		法人会計	3,444,465
無形固定資産		負債合計	3,444,465
投資その他の資産		(純資産の部)	
		一般正味財産	-3,444,465
		純資産合計	-3,444,465
資産合計	0	負債・純資産合計	0

II 損益計算書（収益事業）**損益計算書：収益事業**

(自令和2年4月1日 至令和3年3月31日)

単位：円

科 目	金 額	
【経常損益の部】		
(経常収益)		
事業収益	1,196,453	
企業展示ブース賃貸料	0	
論文集売上 年間購読会員	1,070,000	
電子図書閲覧収入	126,453	1,196,453
(経常費用)		
事業費用	1,824,870	
論文審査料	686,370	
論文PDF作成料	1,138,500	
管理費用（収入按分）	470,341	2,295,211
経常利益		-1,098,758

Ⅲ 貸借対照表

貸 借 対 照 表
(令和3年3月31日現在)

単位：円

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	19,918,169	流動負債	70,000
現金及び預金	18,127,120	未払法人税等	70,000
固定資産	0	固定負債	
有形固定資産		負債合計	70,000
無形固定資産		(純資産の部)	
投資その他の資産		一般正味財産	19,848,169
		純資産合計	19,848,169
資産合計	19,918,169	負債・純資産合計	19,918,169

Ⅳ 損益計算書

損 益 計 算 書

(自令和2年4月1日 至令和3年3月31日)

単位：円

科 目	金 額	
【経常損益の部】		
(経常収益)		
事業収益	23,458,403	
正会員年会費	15,345,450	
新入会員	1,446,500	
賛助会員	839,560	
年間購読会員	1,070,000	
学生会員	1,040,000	
学会誌掲載負担金	2,720,000	
作品応募料	108,000	
春季大会論文掲載料	693,000	
雑収入	195,893	
財務収益	173	
受取利息	173	23,458,576
(経常費用)		
事業費用	12,882,706	
オンデマンド印刷	1,143,428	
選挙経費	0	
論文審査委員会	686,370	
作品審査委員会	168,924	
論文集	1,138,500	
特集号	5,297,732	
作品集	607,200	
概要集	98,646	

大会補助費	1,498,344	
オーガナイズドセッション	0	
キーノート講演費用	0	
国際デザイン会議	65,160	
研究部会活動補助費	222,226	
支部活動補助費	334,705	
広報費	9,220	
学会会関連	143,167	
出版物通信費	717,554	
概要集編集委員会	492,010	
特集号編集委員会	30,670	
総会準備経費	0	
学会各賞選考委員会	0	
Designシンポジウム補助費	0	
封筒費	168,850	
予備費	60,000	
管理費用	8,714,821	
給料手当	4,570,000	
アルバイト雇用費	482,500	
通信費	340,565	
消耗品費	156,772	
水道光熱費	160,632	
支払手数料	150,675	
賃借料	1,800,000	
保険料	108,449	
租税公課	13,300	
経營業務コンサルタント料	165,000	
通勤費	200,360	
印刷費	81,697	
運営経費	27,708	
事務合理化施設設備費	210,500	
雑費	246,663	21,597,527
経常利益		1,861,049
(経常外損益の部)		
経常外収益		
経常外費用		0
税引前当期純利益		1,861,049
法人税、住民税及び事業税		70,000
当期純利益		1,791,049

計算書類の注記表

- ・消費税の会計処理は、税込方式によっている。
- ・関連当事者との取引については、開示すべき取引はない。
- ・重要な後発事項はない。

附属明細書

1. 重要な固定資産の明細・・・該当なし
2. 引当金の明細・・・該当なし
3. その他の重要事項・・・該当なし

V 決算書

2020年度(2020年4月1日 - 2021年3月31日) 決算報告

(一般会計)

■収入の部

項目	予算額	決算額	増減 対予算額	決算額内訳
2019年度繰越金	18,127,120	18,127,120	0	18,127,120
1 会費(現)	16,234,400	15,735,450	-498,950	正会員@13,000×1,181名 学生会員@6,500×60名 15,345,450
2 会費(新)	2,090,000	2,096,500	6,500	学生会員@18,000×81名(一般 入会金:5,000, 年会費:13,000) 学生会員@6,500×100名(学生 入会金:免除, 年会費:6,500) 390,000 1,446,500 650,000
3 賛助会員費(現)	920,000	839,560	-80,440	26件 839,560
4 賛助会員費(新)	30,000	0	-30,000	0件 0
5 年間購読会員費(現)	1,150,000	1,045,000	-105,000	@25,000x42件 1,045,000
6 年間購読会員費(新)	25,000	25,000	0	1件 25,000
7 広告費	50,000	0	-50,000	0件 0
8 学会誌掲載別刷料・負担金	2,595,000	2,828,000	233,000	論文掲載料 作品集審査費 作品集掲載料 2019年度作品集掲載料 1,840,000 108,000 840,000 40,000
10 春季研究発表大会	1,000,000	693,000	-307,000	参加費 研究発表費 懇親会 企業展示 学会大会補助金(2019年度支出) 預金利息 0 693,000 0 0 0 0
11 秋季企画大会	500,000	0	-500,000	参加費 補助金 レセプション参加費 0 0 0
12 雑収入	150,000	196,066	46,066	学会誌売上 NII-ELS還元金、補助金、預金利息等 その他 68,300 126,626 1,140
計	42,871,520	41,585,696	-1,285,824	寄付 0 41,585,696

■支出の部

項目	予算額	決算額	増減 対予算額	決算額内訳
本部事務局&理事会関係	11,189,280	8,784,821	-2,404,459	
1 本部事務局経費	10,489,280	8,784,821	-1,704,459	消耗品代 運営経費(春季大会出張費用含む) 職員給与(@180,000×12,@230,000×2)+(@150,000x12,@75,000x2) 通動費(@6,000x12)+(@13,820x4,@6,000x12) 施設設備費 通信費及び電話代金 印刷代 雑費 会費引落経費 賃賃料(@150,000×12ヶ月) 光熱費 アルバイト雇用費(宛名整理,書類作成,発送,名簿管理補助等) 経営業務コンサルタント料 会員管理システム利用料, オンライン対応経費 租税公課 労災保険料 156,772 27,708 4,570,000 200,360 210,500 340,565 81,697 246,663 150,675 1,800,000 160,632 482,500 165,000 0 83,300 108,449
2 理事会運営費	700,000	0	-700,000	会場借用料、理事会運営経費等 0
3 選挙経費	0	0	0	選挙に関する費用 0
学会誌審査・編集関係	1,465,000	885,964	-579,036	
4 論文審査委員会経費	700,000	686,370	-13,630	686,370
5 作品審査委員会経費	275,000	168,924	-106,076	作品集編集費 168,924
6 学会誌編集・出版委員会経費	100,000	0	-100,000	0
7 特集号編集委員会経費	390,000	30,670	-359,330	第28巻1号編集委員会 第28巻2号編集委員会 第29巻1号編集委員会 第29巻2号編集委員会 30,670 0 0 0
学会誌印刷・通信関係	13,741,000	9,171,910	-4,569,090	
8 印刷費	12,741,000	8,454,356	-4,286,644	論文集・前年分 論文集 特集号・前年度分 特集号 作品集 論文集・作品集オンデマンド印刷費 概要集CD-R 封筒代 0 1,138,500 1,867,140 3,430,592 607,200 1,143,428 98,646 168,850
9 出版物通信費	1,000,000	717,554	-282,446	郵送料・事務代行料金 717,554

大会関係	2,605,000	2,055,514	-549,486	
10 2020年 春季研究発表大会	700,000	812,900	112,900	コンテンツページ制作他 812,900
				講演料等 0
				アルバイト雇用費 0
				会場費・会場設営費 0
				懇親会費 0
				エクスカージョン 0
				通信費 0
				会議費 0
				事務費 0
				消耗品費 0
				雑費 0
11 2020年 秋季企画大会	500,000	185,444	-314,556	Webサイト制作 0
				講演料等 145,685
				アルバイト雇用費 0
				送迎バス 0
				チラシ作成費 0
				懇親会費 0
				会議費 5,221
				消耗品費 32,998
				通信費 0
				雑費 1,540
12 2021年度春季研究発表大会	500,000	500,000	0	準備費 500,000
13 春季大会概要集編集（準備金）	550,000	492,010	-57,990	アルバイト雇用費（2020年度分） 68,730
				演題登録システム（PASREG）利用料（2020年度春季分） 423,280
14 春季オーガナイズドセッション費用	0	0	0	0件 0
15 キーノート講演費用	30,000	0	-30,000	0
16 学会セミナー費用	100,000	0	-100,000	0
17 総会準備経費	60,000	0	-60,000	総会経費、委任状・資料印刷代 0
18 学会各賞選考委員会経費	100,000	0	-100,000	書類作成費（学会各賞推薦状・資料・記念品代等） 0
19 国際デザイン会議	65,000	65,160	160	国際デザイン会議会費（500\$） 65,160
				国際デザイン会議活動費（運営会議活動費） 0
20 Designシンポジウム補助費	0	0	0	0
委員会関係	1,500,000	556,931	-943,069	
21 委員会経費	200,000	0	-200,000	0
22 研究部会共通経費	500,000	222,226	-277,774	共通費（6研究部会） 222,226
23 支部活動補助費	750,000	334,705	-415,295	3支部 334,705
24 市販図書企画・編集経費	50,000	0	-50,000	編集費 0
広報関係	250,000	9,220	-240,780	
25 広報費	250,000	9,220	-240,780	大会ポスター、ちらし通信費 0
				ホームページリニューアル 0
				ホームページ管理・運営 9,220
その他	12,121,240	20,121,336	8,000,096	
26 学協会関連	335,000	143,167	-191,833	学術会議活動費（@30,000+@30,000） 0
				藝術学関連学会連合シンポジウム分担金 15,000
				日本工学会活動費 0
				日本工学会会費 28,167
				CPD協議会会費 50,000
				日刊工業新聞社 0
				横断型基幹科学技術研究団体連合会費 50,000
				横断型基幹科学技術研究団体連合活動費 0
				デザイン関連学会活動費 0
27 予備費	11,786,240	60,000	-11,726,240	慶弔費 60,000
				その他 0
28 繰越金	0	19,918,169	19,918,169	19,918,169
計	42,871,520	41,585,696	-1,285,824	41,585,696

【特別会計】

	2019年度	2020年度	増減	決算額内訳
学会本部事務局常設基金	20,364,085	20,366,028	1,943	利息(1,943)：基金に繰り入れ

2020年度収支決算につき、上記のとおりご報告いたします。

2021年5月24日 一般社団法人日本デザイン学会

本部事務局長 佐藤 弘喜

本部副事務局長 小野 健太

本部事務局員 松原 久代

杉田 美幸

監事 國澤 好樹

監事 蓮見 孝

2021 年度活動方針

会長：小林昭世

2020 年度の振り返り

2020 年度の春季大会を機に松岡前会長から会長を引き継ぎました。春季大会は益岡了先生を中心とした岡山県立大学の先生方で、対面と遠隔の両方を想定して準備を進めていただき、最終的に大会は遠隔開催となりました。開催校、研究推進委員会、概要集編集委員会をはじめ多くの方々の機動的なご対応とご尽力により、研究発表を中心とする春季大会の機会を設けることができました。コロナの影響が第3波、第4波を迎えるなかで、杉下哲先生を中心とした東京工芸大学の先生方による秋季大会は開催されました。当学会の各委員会、各支部、各研究部会でもコロナの困難さのなかでそれぞれの工夫により活動を維持することができました。松岡前会長が掲げた (1) 対象領域の拡大 (2) 研究・教育基盤の向上 (3) 他団体との連携強化という当学会の活動目標のために、止まらず成果を上げているといえます。

2021 年度活動に向けて

コロナのワクチンができて、収束には予想以上の時間がかかりそうです。私たちは動き方を少しずつ変えることを学び、コロナへの対応を見出しつつあります。

本年度、学術活動をするための「基盤を固め」、「交流をする」という基本的な当学会の活動を着実に進めたいと考えます。

(1) 学術活動の基盤を確かに

関係の方々のご尽力で英文ジャーナルは軌道にのってきました。また、学会誌と作品集は定期的に刊行されています。これらの刊行は、学術活動を深く、広くする基盤です。コロナの状況下でもこれらの基本的なことを遅滞なく行います。

(2) 研究大会

2 年にわたり春季大会を準備していただいた境野広志先生を中心とする長岡造形大学の先生方に感謝申し上げます。頭初から対面と遠隔の両方で準備を進め、最終的に遠隔の大会になりました。遠隔で起こりそうな様々な事故、不具合を予め想定し、きめ細かく対応して、例年とは異なる遠隔の研究発表等を準備、運営していただき、成果のある春季大会になるものと確信します。

また、2021 年秋季企画大会と 2022 年春季大会につきましても、遠隔として開催することとし、早急に準備を始めます。

(3) 他の会議体、組織との交流と連携

2021 年 12 月には山中俊正先生が会長となった IASDR が香港理工大学で開催されます。このほかにも、本学会が連携あるいは加盟する日本工学会、学術会議との関連で発足した藝関連や横幹連合、目標を共にする学会間の連帯組織である Design シンポジウム、デザイン関連学会などの活動、そして、各支部、各研究部会におかれましても国内・国外学術団体、実業団体と連携して活動しています。

さらにデザイン学の特殊性を考えれば、デザイン職能団体と連携することにより、学術的な立場から取り組む課題の裾野を開いていければと考えます。

(4) 運営に関わる会議

理事会、運営委員会など、当学会の運営に関する会議を遠隔で開催してきました。会議を遠隔で開催する利点を積極的に評価し、当面これを継続したいと思います。

2021 年度 委員会等一覧

本部事務局	事務局長	副事務局長	幹事
	佐藤弘喜	蘆澤雄亮 小野 健太 加藤健郎＊ 佐藤浩一郎＊	

委員会	委員長	委員	幹事
論文審査委員会	久保光徳（和文誌担当）	伏見清香 加藤健郎＊ 佐藤浩一郎＊	
	村上存＊（英文誌担当）	小山慎一 ハイメ・アルバレス 柳澤秀吉＊	
作品審査委員会	杉下哲＊	岡本誠 上綱久美子 佐々木美貴 山内貴博	内山雄介 高城光
学会誌編集・出版委員会	寺内文雄	山本早里 井関大介＊ 曾我部春香	
研究推進委員会	小野 健太	蘆澤雄亮 柿山浩一郎	佐々牧雄 佐久間彩記 秋山福生
企画委員会・総合企画	生田目美紀	工藤芳彰＊	
企画委員会・支部企画	平松早苗	横溝賢 滝本成人 益岡了 田村良一	
教育・資格委員会	松岡由幸	加藤健郎＊ 佐藤浩一郎＊ 井関大介＊	
広報委員会	大島直樹	永盛祐介	
財務委員会	生田目美紀	小野健太	
市販図書企画・編集委員会	國本桂史		加藤大香士 丁知強
春季研究発表大会概要集編集委員会	柿山浩一郎	永盛祐介	小宮加容子

支部	支部長	副支部長	幹事
第 1 支部(北海道・東北地域)	横溝賢	柚木泰彦	福田大年 安井重哉 堀江政広 酒井聡 石井宏一 菅原香織 田中隆充 中島郁子 両角清隆 岡本誠 原田泰

第2支部(関東地域)	平松早苗	橋田規子	
第3支部(北陸・中部地域)	滝本成人	池田岳史	廣瀬伸行 中西正明 加藤大香士 弓立順子 西田智裕
第4支部(近畿・中国・四国地域)	益岡了	赤井愛	
第5支部(九州・沖縄地域)	田村良一	井上貢一	岩田敦之 大久保亨 梶谷克彦 迫坪知広 鶴野幸子 中村隆敏 西口顕一 原田和典

学会各賞選考委員会	委員長	委員	
<協力委員会>	庄子晃子	青木弘行	杉山和雄
久保光徳（論文審査委員会和文誌）		原田昭	松岡由幸
村上存*（論文審査委員会英文誌）		宮内愼	宮崎清
杉下哲*（作品審査委員会）		森典彦	山中敏正（担当）
委員会等担当	担当		
Design シンポジウム担当	松岡由幸（代表委員）	小野健太 小林昭世	加藤健郎* 佐藤浩一郎* 永盛祐介
デザイン関連学会シンポジウム担当	松岡由幸	加藤健郎*	佐藤浩一郎*
IASDR 担当	山中敏正	小野健太	
日本学会会議担当	小林昭世(第一)	村上存*(第三)	
日本工学会担当	小野健太		
横幹連合担当	蘆澤雄亮		
機械工業デザイン賞審査委員会担当	小林昭世		
運営会議	小林昭世 松岡由幸 佐藤弘喜 杉下哲* 小野健太 寺内文雄 久保光徳 村上存*	蘆澤雄亮 平松早苗 大島直樹 生田目美紀 山中敏正 加藤健郎* 佐藤浩一郎*	
選挙管理委員会 ※2021年7月31日まで	委員長	委員	
	永盛祐介	森岡大輔 加藤健郎 吉澤陽介 中島瑞季	

監事	國澤好衛	蓮見孝
----	------	-----

2021年度 日本デザイン学会組織



2021 年度事業計画

論文審査委員会

委員長 久保 光徳

2021年度は、デザイン学領域の研究・教育基盤のさらなる向上に向けた活動を推進していく。2020年度に続き、英文誌と和文誌それぞれに担当委員を割り振り、英文誌“Journal of Science of Design”については村上存委員長を中心に学術水準の確保と国際的認知度の向上を推進していく。一方、和文誌『デザイン学研究』については久保を中心に採択論文の多様性の拡充、投稿数の増加や審査期間のさらなる短縮を目指していく。

また、昨年度に引き続き、多くの会員の皆様にご投稿いただけるよう、迅速な対応を推進していく。

【和文論文】委員長 久保光徳，委員 加藤健郎，佐藤浩一郎，伏見清香，Sim Teck Ceng

【英文論文】委員長 村上 存，委員 アルバレス・ハイメ，小山 慎一，柳澤 秀吉

作品審査委員会

委員長 杉下 哲

2021 年度は、今期体制のもとで論文集、研究発表でデザイン事例を増やす仕組みを整備する目標を示されてもいるなか、「デザイン学研究・作品集」の、より一層の充実を目指す。予定する 27 号は、続くコロナ禍の社会状況ではあるが、これまで同様に 2 月刊行に向け、8 月 20 日～8 月 31 日を「作品論文」「作品ムービー」の投稿期間とし、その後審査を開始する予定である。今後の広報ならびに日本デザイン学会 Web ページをご確認いただきたい。皆様が設計・制作したデザイン成果とその実現過程での研究・開発や思考プロセスなどの発表に、今後とも貢献する所存である。特には、上記も含めたより投稿し易い仕組みづくりを更に努めるとともに

に、論文集や他委員会などとの連携をより一層図り、作品集の在り方を深めたい。作品審査委員会メンバーは、引き続き、委員：杉下哲，岡本誠，上綱久美子，佐々木美貴，山内貴博および幹事：内山雄介，高城光である。

学会誌編集・出版委員会

委員長 寺内 文雄

2020 年度の特集号は、2 冊の刊行を予定している。まず 29 巻 1 号 (105 号) は「デザインのこれから (仮題)」(担当：小野健太，蘆澤雄亮) である。一方 29 巻 2 号 (106 号) は、現在募集を行っている。会員の皆様からデザイン学会にふさわしい魅力ある企画・ご提案をいただきたい。委員：寺内文雄，山本早里，曾我部春香，井関大介。

研究推進委員会

委員長 小野 健太

研究推進委員会の主な活動は、1. 研究部会の活性化、2. 春季研究発表大会のテーマセッションの運営、3. 秋季企画大会における企画運営などである。2021 年度においても、これらの活動を粛々と推進していきたいと思う。また新型コロナの影響により、研究発表の在り方自体について早急に考え直す必要があり、いかにデザインに関する知を積み上げるかという視点から、他の委員会と連携しながら、新しい研究発表大会の在り方について模索していきたいと思う。2021 年度担当理事・幹事：蘆澤雄亮，柿山浩一郎・佐々牧雄，佐久間彩記，秋山福生

企画委員会 総合企画

委員長 生田目 美紀

企画委員会 (総合企画) の主たる任務は、春季および秋季の大会運営である。前年度の経験を踏まえ、新型コロナ禍を新たなイベント形態の試行機会と捉え、オンラインイベントな

どの可能性を探り、積極的に企画・実施していく所存である。引き続き、諸会員の皆様のご理解・ご協力をお願いします。

企画委員会 支部企画

委員長 平松 早苗

企画委員会支部企画では昨年度に継続して「教育成果集」の企画を実施する。また、過去 3 回の実施の中で上がった成果を、学会 HP へ掲載することも行いたいと考える。今後、出てきた課題や可能性を、支部間で連携を図りながら企画運営を実施したいと考える。

今年度作品の応募について、会員の皆様のご協力を賜りたくよりしくお願い申し上げます。

教育・資格委員会

委員長 松岡 由幸

2021年度は、デザイン学領域における教育・研究の質的向上を高めることを目的とした「教育」の活動を主として推進していく。

本年度は、2020年度に検討を重ねた若手のデザイナーや設計者向けの講習会を実施する予定である。また、デザイン学領域の主要なトピックを題材とした教科書的な市販教材の検討も行い、それらを用いた講習会実施の検討も合わせて進めていく。

概要集編集委員会

委員長 柿山 浩一郎

2021 年度は、長岡造形大学に大会幹事校を担って頂くこととなっているが、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響を受け、対面 (幹事校会場) での実施と、遠隔での実施の両者の可能性の模索を大会幹事校とともにに行った。2021 年 5 月現在、遠隔での実施を決定し準備中である。

デザイン学会の春季大会としては初めての遠隔学会運営を、システムでの検討・調整を含めて行う。また、遠

隔での大会運営の実績を通して、遠隔で春季大会を行う際における大会幹事校の位置付けや遠隔学会運営の指針をまとめる計画である。

なお、春季大会の梗概原稿・J-Stage 登録情報の収集、J-Stage への業績登録は例年通り実施する。

2021 度担当理事・幹事：永盛祐介，小宮加容子

広報委員会

委員長 大島 直樹

本年度の広報委員会は、Web サイトの情報更新の強化に努める。

具体的には、昨年度予定していたが実施できなかった支部や研究部会の Web ページの情報更新を実現する。また支部や研究部会といった単位でニュース投稿できる仕組みを周知し、情報配信の活性化を促す。これら Web サイトの情報更新やニュース投稿を促進させるため、それらの方法を説明するマニュアルの改定と充足を実現する。

そしてリニューアルしてから 6 年が経過した現在の Web サイトのユーザビリティの向上などを見直し、リデザインも検討していく。

財務委員会

委員長 生田目 美紀

新型コロナウイルス感染症予防対策のため大会がオンライン化されるなど、新たな学会運営が求められている。財務委員会では、収支計画に係る会員数のタイムリーな把握を行い、大会参加費の再設定や、会員に喜ばれる支出のあり方を検討しながら、健全な学会運営を行う。

市販図書企画・編集委員会

委員長 國本 桂史

本委員会は、統合知としての「デザイン」を支える学会の図書企画・編集への取組みを進める。主な活動として、デザイン学に寄与するデザイン

研究に関する市販図書の出版のために、新しい分野とのデザインのシリーズの企画を検討するとともに、それらをセミナーやワークショップの企画に連携することにも取り組んでいく予定である。

国内・国外のコロナウィルスの状況と経緯により、医療デザインの図書企画を進めると共に感染症の分野でのデザインとしての取り組みを図書企画に反映する検討を行っていく計画を行っている。

また医療住宅ダイバーシティ学会とのオンラインワークショップを開催検討する。

学会の皆様や異分野の研究者の方々に、ご協力をお願いしたい。

学会各賞選考委員会担当

担当理事 山中 敏正

2021 年度学会各賞審査委員会は以下の構成で実施する予定である。

委員長：庄子晃子

委員：青木弘行、杉山和雄、原田昭、松岡由幸、宮崎清、宮内愠、森典彦、山中敏正

Design シンポジウム担当

担当理事 松岡 由幸

本年度は、精密工学会が幹事学会として、2021 年 9 月 16 日-17 日において行われる。シンポジウムはリモート形式によるもので、現在、東京大学の梅田靖氏の実行委員長のもと、準備の最終段階に入っている。当学会からは、松岡、小林、小野、加藤、永盛、佐藤（浩）の 6 名が運営委員として参画している。

デザイン関連連学会シンポジウム担当

担当理事 松岡 由幸

本シンポジウムは、2016 年より毎年、当学会、芸術工学会、意匠学会、基礎デザイン学会、道具学会の日本におけるデザインに関する 5 学会が

集い、哲学などさまざまな横断的な議論を行う場である。

2020 年度は、基礎デザイン学会が幹事学会であったが、コロナ禍の状況を鑑み、やむなく中止した。2021 年度も引き続き、基礎デザイン学会が幹事学会として、現在、実施の可否を含めて、検討中である。

IASDR 担当

担当理事 山中 敏正

5 月 6 日、2021 大会の準備状況の確認と、懸案の IASDR と DRS の連携関係について議論を進めた。2021 大会は当初の投稿締切が延長されて 5 月 31 日となった。現下の状況を鑑みると完全対面での開催は現実的でなく、ハイブリッド開催とするよう確認することとした。

加えて、2023 大会のホスト校について、応募制とした 2017、2019 大会とは異なり、理事会で議論した上で可能性の高い大学に打診する方向が承認された。

日本学術会議

第一部/人文・社会科学

担当理事 小林昭世

日本デザイン学会を含む 16 学会よりなる藝術学関連学会連合は、シンポジウム開催を主な活動としている。2021 年度は、2021 年 6 月 12 日（土）13:00-17:00 に Zoom によりテーマは「芸術とスポーツ」芸術とスポーツの近接、身体性のありか、オリンピックを問う、の内容のシンポジウムをオンライン開催する。

また、本年度活動として 2022 年度のシンポジウムを準備する。

横断型基幹科学技術

研究団体連合

担当理事 蘆澤 雄亮

昨年度に引き続き、コトづくり至宝発掘事業として「コトづくりコレ

クション」の選出が実施される予定であり、学会としても積極的に関与していく予定である。可能であれば、当学会からも何らかの推薦を行いたいと考えている。

日本工学会

担当理事 小野 健太

本工学会は、約 100 学協会により構成される工学系学術団体である。本年度も新型コロナの影響により、事務研究委員会は昨年度に引き続きメール、オンラインでの開催となっている。昨年度に引き続き、公開シンポジウム、委員会へ積極的な参加を通じて、研究や運営など有効な情報交換を行いたい。

第 1 支部

支部長 横溝 賢

第1支部は、第12回目の支部大会を10月3日（日）（予定）で岩手・盛岡にて初開催する。幹事校は岩手大学である。岩手での開催は本来であれば昨年度の予定であったが、COVID-19感染拡大防止のため中止となり、代わりに全面オンライン学会に切り替えて実施した。この時は発表プログラムの合間に屋外中継を取り入れ、現場のライブ感を感じ取れる学術交流を試みた。本年度は昨年度の経験を活かし、岩手・盛岡を学術交流拠点として岩手エリアの各所、あるいは東北・北海道エリアまで拡張して、複数の現場からの中継を通じたりリモートフィールドワーク型オンライン学会の開催を試みる。「多様な現場を遠隔で味わうデザイン活動」を、支部会員や地元盛岡の市民だけでなく他地域の市民活動家や社会人、学生や教員にも開き、地域デザインの可能性を参加者らと共に考える研究交流を促進する。

本大会の開催概要は詳細が決まり次第、Webなどで告知する。また本年度も昨年に引き続き、第1支部との結びつきが弱い、福島県との活動連携を模索し、支部内の会員間交流の

活発化や新規会員の増加を目指す。

第 2 支部

支部長 平松 早苗

東京オリパラ 2020 が 1 年延期となり、現 5 月中旬時点では開催は未定である。コロナ終息後を見据え、「おもてなし～コミュニケーションデザイン」の実践の場の見学等を、引き続き検討し開催する。

企画委員会支部企画の「教育成果集」は、昨年度と同様に編集作業を第2支部で担当する。昨年度の実績を踏まえ、より広く多くの作品を見ていただけるかたちを考えている。作品の応募について、会員の皆様のご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

第 3 支部

支部長 滝本 成人

第3支部では今年度も会員の活動・研究を相互に知り合い交流を深めるため、支部研究発表会と懇親会を実施する。この研究発表会では、学生を対象とした優秀発表賞を設け、口頭発表者とポスター発表者を表彰する。次に報告集(査読無)を募集する。研究発表と報告集はISSNを取得した「日本デザイン学会第3支部研究発表会概要集」にまとめ、国立国会図書館に収録する。次に学会会員が所属する大学の卒業研究に対し、学部生2名・大学院前期課程2名・後期課程2名に奨励賞を贈る。また、支部研究発表会と報告集は、全国から参加できるので多くの皆様にご参加いただければ幸いである。

第 4 支部

支部長 益岡 了

第 5 支部

支部長 田村 良一

2021 (令和 3) 年度は、10 月中旬～11 月中旬を目途に、第5支部理事及び幹事を実行委員として、オンライン方式にて、「2021 年度第5支部発表会」を実施する予定である。

本発表会では、通常の研究発表大会における口頭発表・ポスター発表に準じる「研究発表」と、研究や作品が未完であっても発表練習や聴講者との意見交換などを目的とする「ライトニングトーク」の2発表区分を設ける。一昨年度、昨年度に引き続き、PDF 概要集の代替および多様化する視覚資料への対応から「MediaWiki」を利用する。また、特にライトニングトークにおける学部学生の活発な発表を促すことを目的とした表彰制度の運用、デザインの啓蒙活動の一環とした高等学校宛ての本発表会の案内などについて、具体化に向けた検討を進めていきたいと考えている。

なお、依然としてコロナ禍の先行きが見えない状況であるため、詳細が決まり次第、第5支部からWeb等を通じて、会員の皆様へご案内を差し上げる予定である。多くの皆様の本発表会への参加および発表を歓迎する。

本部事務局

本部事務局長 佐藤 弘喜

本年度は昨年度に引き続き新型コロナウイルスの問題から春季大会がオンライン開催となり、総会も前回と同様にオンラインで実施することとなった。事務局の業務や理事会運営などが新型コロナウイルスによって対応方法の見直しを迫られてきたが、収束後においても今回の経験を踏まえ、効率的な事務局運営のあり方を検討していく必要がある。

本年度より、会員管理システムの運用を開始したが、本格的な稼働はこれからであり、システムの運用を軌道に乗せることで、かねてより懸案であった会員の定着率向上や会費徴収率の向上が期待される。

運用にあたっては継続的にデータの修正や設定の見直しなどが必要となることが予想されるため、本格稼働となる本年度は特にその対応が重要である。各会員の立場からは本システムにより入会や会費納入などの各種申請や手続きの利便性向上が期待される。利用開始当初はシステムの操作方法に慣れていただく必要があるが、ぜひ積極的に活用していただきたい。

困難な社会状況が続く中でも事務局は学会の窓口として会員の皆様へのサービスを第一に考えた対応を心がけていく所存であり、関係各位のご理解とご協力をお願いしたい。

教育部会

主査 金子 武志

今年度の予定としては、2019年度と2020年度に新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を見送ったデザイン教育研究会の企画『蒐集についての一考察 ～モノとの縁、ヒトとの縁～』（発表者：中川 英之、gallery 坂オーナー）をリニューアルして開催する予定。開催時期としては、新型コロナウイルス感染症の影響がある程度終息し、社会活動全般の回復を注視しながら再調整を試みる予定である。

例年の流れでは部会関係者のリクエストや旬な話題に応じたフレキシブルな研究会を年2～3回実施する予定であるが今後の状況次第である。オンラインによる実施も選択肢にあるが、参加者の年齢等やオンラインの操作スキルの問題を考慮しながら無理の無い計画を立てていきたい。

環境デザイン部会

主査 山内 貴博

本年度の環境デザイン部会は「サステナブル環境デザイン」をメインテーマとし、近年の流れを継続する。コロナによって都市部や過疎化が進んでいる地方にどのような変化が起きるのか、主にパブリックスペー

スについて、そこで必要な環境デザインのあり方を考える内容である。従来の環境デザインにプラスされた新たな考え方がそこには必要とされていると思われる。SNS 社会や地域のコミュニティ、リノベーション、地方の農林水産業などの課題について、コロナ禍の影響もみながらより広範囲な持続可能な環境デザインを考えることを目指す。

活動としては、部会員が各地で行っている研究について、大会等を通して理解を深め、必要な場合には事例視察を行う予定とする。創設時から続く部会の会報「ED Place」は、これまでと同様に、年間3回の発行を予定している。また、100号が近づいていることもあり、活動を振り返る企画も検討する。上記の活動とともに、本部会の位置づけや活動、運営、体制の在り方などを検討しながら、部会の活性化を図る。

これら予定は、6月の部会総会で協議して具体的な内容を定めるが、部会員相互の研究の理解と深化を中心に、学会内外の協力を得て、本年度も進めていきたいと考えている。

家具・木工部会

主査 新井 竜治

●春季大会テーマセッション

第68回春季大会では、テーマセッション - 家具・木工部会：「伝統的資源と現在学」を開催する予定である。同テーマセッション内で、順延となったキーノート講演「木製家具デザインにおける今後の課題」（石村眞一氏・名誉会員）を開催する予定である。

●総会

例年、春季大会に合わせて家具・木工部会の総会を開催してきた。2021年度春季大会がオンライン開催となったため、総会は持ち回り審議にて実施する予定である。

デザイン科学研究部会

主査 松岡 由幸

本年度は、教育・資格委員会との共

催を視野に入れ、デザイン科学の研究と教育をさらに進めていく。具体的には、デザイン科学の基礎的なテーマをテーマとした講習会の企画を検討し、それらに用いるテキストも合わせて検討していく。

また、6月に長岡造形大学で開催される春季大会ではテーマセッション「多空間デザインモデル、デザイン理論・方法論」が企画されている。また、タイムアクシスデザイン研究部会との合同によるキーノート講演も予定されており、多くの方々の活発な議論を期待している。

ファッションデザイン部会

主査 神野 由紀

2021年度の活動計画については、対面での研究例会の再開を予定しているが、新型コロナウイルスの感染状況をみながら、引き続きオンライン開催の可能性も含めて検討する。

子どものためのデザイン部会

主査 赤井 愛

2021年度は(1)第67回春季大会開催と併せてオンライン部会ミーティング開催、(2)部会サイト (Facebook)での積極的な情報発信・共有、(3)オンラインでの部会ワークショップ／研究会の実施、といった活動を予定している。さらなる部会活動の充実をはかるため、新規入会を含め、学会員の積極的な参加を期待したい。部会サイトは以下のとおりである。研究や部会員の活動に関して積極的に情報共有したく、ご希望の方は主査または幹事までおしらせ頂きたい。

(<https://www.facebook.com/design.for.children.jp/>)

タイムアクシスデザイン研究部会

主査 柳澤 秀吉

2021年度より、主査を拝命しました柳澤秀吉です。本年度は本部会の組

織化も行い、タイムアクシスデザインの本質や原理の明確化や具現化を進めていく予定である。

本年度は特に、デザイン学におけるタイムアクシスデザインの過去、現在、に関する知見の共有化を行い、そこから考えられる未来について議論を進めていく予定である。

また、6月に長岡造形大学で開催される春季大会にて、テーマセッション「タイムアクシスデザイン」と同セッション内でのキーノート講演を企画しており、多くの方々との活発な議論を期待している。

バイオ・メディカルデザイン研究部会

主査 國本 桂史

2021年度は、日本医療住宅ダイバーシティ学会においてオーガナイズド・セッション「先端医療・ヘルスケアからの社会へのアプローチ」における発表と活発な議論から学術的視点に立ったメディカルデザイン：臨床医療デザイン学の検討の場とする事を計画している。

2020年度の日本病院学会が新型コロナウイルス感染症により開催中止の決定がされたことにより、次回開催される2021日本病院学会において「HOSPITAL 5.0」というテーマでセミナーを行なう予定である。

日本ヘルスケア・ダイバーシティ学会の全国大会：大会テーマ「多様性を価値にするマネジメント」においてセミナーを予定している。その場で各分野の専門家からの意見をいただき臨床医療デザイン学分野での問題解決手法を新たにしていきたいと考えている。日本医療住宅ダイバーシティ学会では、建築・デザイン・生活環境・最適化住宅設計などの多方位の視点からの医療・住宅・デザインについて議論を行うワークショップも企画を進める。

引き続き、バイオメディカル研究部会では医学、保険学、ヘルスケア、生物学、工学とデザイン学の境界領域として考えられる広い範囲のテーマに興味を持

つ研究者、技術者、実務者のための場となることを目的とし

(1) バイオメディカルデザインの枠組みづくり

(2) バイオメディカルデザインの方法論や実践を通しての手法の確立

(3) バイオメディカルデザインの実践について研究を行う予定である

情報デザイン部会

主査 横溝 賢

昨年度、情報デザイン研究部会では新たに幹事6名を運営メンバーの構成員として加え、組織体制を整えなおした。本年度は従来の主査・副査にこの6名を加えた8名体制で部会活動を進めていく。

◎幹事メンバー：上平崇仁（専修大学）、小早川真衣子（千葉工業大学）、瀧知恵美（ミミグリデザイン）、中島郁子（wirefactory）、二宮咲子（関東学院大学）、福田大年（札幌市立大学）

◎本年度は下記の項目を活動ビジョンとして位置付ける。

1. 人びとが共に生きる社会と、産業が高次に発展する社会の双方に立脚した情報デザイン学の発展と認知を促進するための研究コミュニティを作る。
2. 幹事メンバー独自の自由研究テーマを呈示し、小部会活動をはじめる。
3. 企業や社会人デザイナーらが気軽にデザイン実践の物語りをもちよれる場所をつくる。多様なデザイン実践者たちが自らの実践を題材とし、研究を構築し、継続できる文化を創る。
4. デザイン実践を研究として論述するための枠組みを作り、デザイン実践の論述手法として部会内、学会内への認知を促していく。
5. その上で「デザイン知」について、他学会など、多様なフィールド（場）で議論できる関係をつくっていく。
6. さまざまな「実践におけるデザインの知のはたらき」についての論述が集まったら、ジャーナルの編集を

試みる。

デザイン史研究部会

主査 立部 紀夫

今年度は年2回程度の発表形式の研究部会を開催し、デザイン史に関する研究活動を積み上げて行きたい。

タイポグラフィ研究部会

主査 伊原 久裕

昨年度末から主査が交代し、山本政幸、劉賢国会員に暫定幹事を依頼し、今年度の活動方針を立てた。大まかな方針を、タイポグラフィ研究の推進のために、特に若手の研究者ならびにタイポグラフィの研究に関心を持つ実践者の活動を促進することとした。具体的な計画として、1) 若手研究者によるオンライン研究会の開催を企画、2) 来年度のオーガナイズド・セッションのためのタイポグラフィに関する企画提案の2点を立てている。

アジアデザイン研究部会

主査 藤澤 忠盛

本年度より新規設立された部会です。どうぞよろしくお願いいたします。

趣旨：アジアのデザインが経済発展と共に急速に進化している。カンボジア・ミャンマー・ラオスなどの東南アジア奥地でも人口増加と共に独自の進化の過程をたどり、現代デザインに拍車がかかっている。ベトナムなども共産主義国として内戦を含め独自の歴史と共に進化を加えてきた。モンゴルなどの中央アジアでも都市開発と共に映像、広告、アプリ開発など盛んにデザインが研究なされている。韓国では日本と同様にライフデザイン、ソーシャルデザインなどモノづくり系のデザイン以外にも積極的にデザインというキーワードを使っている。しかしながらどの国でどのようなデザインが存在しているか集積したデータがそれほどあるとは思

えない。先進的・歴史的なアジア地域のデザインの事例を調査し多角的に分析することで「アジアデザイン」の領域概念を整理する。またそれらを公表することでデータベースとし顕在化を図る。アジア地域のデザインは歴史、民俗などが関連しながら発展している一方で強力な経済発展と共に急速な欧米化が進みアジア的な個性の存続が危惧される。各国家の現状を理解し、地域・風土性を生かしたアジア的個性を研究・開発し促進させる。一例としてカンボジアは首都プノンペンを中心に急速な人口増加と経済発展がおこり、それに伴い計画性の乏しい乱立した都市開発が行われている。その結果、都市景観の悪化、歴史的建造物の破壊、観光的資源の損失、地域・風土性のノスタルジー紛失など様々な問題が生まれている。これらの背景にはカンボジアには地域地区が存在しないことがあげられる。「地域地区創成の研究」を行い地域・風土性を保存する地域と高密度開発する地域を分別し提案することで計画的な都市デザインが生まれる可能性を持つ。このように現状で起こっている諸問題を解決し、社会をより推進しうるデザイン研究・開発を行う。さらにアジア地域との比較を取り入れ日本のデザインをさらに進化させる、また各国の進化したデザイン領域から日本のデザインが学ぶべきことは多々ある。その際アジアの人々と活発に交流し国際協力を行う。

本研究部会の使命として人間の創造性を発現し社会の未来を拓く創造的なデザイン学の新規性と有益性を、長期的に社会に示していく。

創造性研究部会

主査 永井 由佳里

昨年度の主な活動は、①国内外の関連学術団体（The Design Society, 日本創造学会等）との交流及び連携、②創造性とデザインに資する学際的教育や人材育成への貢献（STEAM教育等）、③イノベーションデザイン情報の発信や展示 ④メンバーの主体的な研究・教育活動である。日本学術会議（第1部・第33部）の提言に寄与した。

2021 年度 予算

2021年度（2021年4月1日 - 2022年3月31日）予算（案）

〔一般会計〕

■収入の部

項目	予算額	予算額内訳
2020年度繰越金	19,918,169	
1 会費（現）	16,047,200	正会員@13,000×1,435名×0.8(徴収率) 学生会員@6,500×216名×0.8(徴収率)
2 会費（新）	2,090,000	正会員@18,000×80名（一般 入会金：5,000、年会費：13,000） 学生会員@6,500×100名(入会金：免除、年会費：6,500)
3 賛助会員費（現）	780,000	27件
4 賛助会員費（新）	30,000	@30,000×1件
5 年間購読会員費（現）	1,060,000	@25,000×43件
6 年間購読会員費（新）	25,000	@25,000×1件
7 広告費	50,000	@50,000×1件
8 学会誌掲載料	2,635,000	論文掲載料（(@40,000×8報）×6冊） 作品集審査費（@3000×25件） 作品集掲載費（@40,000×15報） 2020年度作品集掲載費（@40,000×1件）
9 春期研究発表大会	1,290,000	@6,000×215人
10 秋季企画大会	0	
11 雑収入	150,000	学会誌売上 NII-ELS還元金、補助金、預金利息等 その他 寄付
計	44,075,369	

2021予算（繰越金なし）

■支出の部

項目	予算額	予算額内訳
本部事務局 & 理事会関係	11,271,780	
1 本部事務局経費	10,571,780	消耗品代 運営経費（春季、秋季大会出張費用含む） 職員給与（@180,000×12、@230,000×2）+(@150,000×12、@100,000×2) 通勤費（@6,000×12）+（@13,820×4、@6,000×12） 施設設備費 通信費及び電話代金 印刷代 雑費 会費引き落とし経費 賃貸料（@150,000×12ヶ月） 光熱費 アルバイト雇用費および時間外手当 経理業務コンサルタント料 会員管理システム利用料 オンライン対応経費 租税公課 法人税、住民税及び事業税 労災保険料
2 理事会運営費	300,000	会場借用料、理事会運営経費等
3 選挙経費	400,000	選挙に関する費用
学会誌審査・編集関係	1,465,000	
4 論文審査委員会経費	700,000	
5 作品審査委員会経費	275,000	
6 学会誌編集・出版委員会経費	100,000	
7 特集号編集委員会経費	390,000	第29巻1号編集委員会 第29巻2号編集委員会 第30巻1号編集委員会
学会誌印刷・通信関係	8,731,000	
8 印刷費	7,731,000	2020年度論文集（0冊） 2020年度特集号（0冊） 2020年度作品集（0冊） 論文集（@23,000×10報）×6冊 特集号（@2,000,000×2冊） 作品集（@23,000×20報） 論文集・作品集のオンディマンド印刷費（@1000×7冊+@3700×1冊）×130件 概要集USB 封筒代
9 出版物通信費	1,000,000	郵送料・事務代行料金
大会関係	4,175,000	
10 2021年度春期研究発表大会	2,000,000	
11 2021年度秋季企画大会	500,000	
12 2022年度春期研究発表大会（準備金）	500,000	
13 春季大会概要集編集委員会経費	550,000	活動費 演題登録システム（PASREG）利用料、データ変換料
14 春季オーガナイズセッション費用	240,000	@80,000×3件
15 春季キーノート講演費用	60,000	@30,000×2件
16 学会セミナー費用	100,000	
17 総会準備経費	60,000	総会経費、委任状・資料印刷代
18 学会各賞選考委員会経費	100,000	資料作成費・記念品代
19 国際デザイン会議	65,000	国際デザイン会議会費（500 \$） 国際デザイン会議活動費
20 Designシンポジウム補助費	0	

項目		予算額	予算額内訳
委員会関係		1,500,000	
21	委員会経費	200,000	共通費
22	研究部会共通経費	500,000	共通費（現行19研究部会）
23	支部活動補助費	750,000	@150,000×5支部分
24	市販図書企画・編集経費	50,000	編集費
広報関係		250,000	
25	広報費	250,000	大会ポスター・通信費、パンフレット作成費 ホームページ管理・運営
その他		16,682,589	
26	学協会関連	335,000	学術会議活動費（@30,000+@30,000） 薬術学関連学会連合シンポジウム分捐金 日本工学会活動費 日本工学会会費 CPD協議会会費 横断型基幹科学技術研究団体連合会費 横断型基幹科学技術研究団体連合活動費 日刊工業新聞社 デザイン関連学会活動費
27	予備費	16,347,589	
計		44,075,369	

名誉会員証贈呈

2020 年度

108 号 岡田 明 氏
109 号 久保 雅義 氏

2021 年度

110 号 面矢 慎介 氏
111 号 源田 悦夫 氏
112 号 佐々木 尚孝 氏
113 号 蓮見 孝 氏
114 号 古屋 繁 氏
115 号 両角 清隆 氏